

私見創見 Saturday

秋田市の中心街から一本路地を入ったところに、樹齢350年の銀杏の木がある。「座頭小路の銀杏」と呼ばれるその木は昔、侍に斬りつけ

られた座頭の持っていた杖が育ったものと言われており、秋田市の保存樹に指定されている。小さい頃すく近くに住

んでいた私は時折、親に叱られると、ここまで歩いて来ては「そろそろ落ち着いたかな？」と戻ることにしていた。今思うと可愛げのない子どもであった。

先日、秋田市でイベントに参加した。会場は千秋公園という城跡のすぐ近くで、お堀を見ながら懐かしい気持ちで

いっばいだった。ホテルに戻って外を見ると、この銀杏が目に入ってきた。かつての街並みからはすっかり変わって

いて、最初は位置関係が分からなかったのだが、銀杏の存在で気づいて歩いてみると、

昔お世話になった医院や近所の家など面影を残すものが

いくつか見つかった。銀杏の元に行ってみると、確かに巨

木だが、幼少期に感じた大きさとはまるで違って、40

捉え方を変ええる試み

年近い時間の経過を実感し

た。350年という時間から見ると40年という時間は短いもの。おそらくこの間、銀杏自

体はあまり変わっていないだろう。その間に私の身長は倍

近くになり、いろいろなどころでたくさん経験をした。周囲もかつては住宅や低い建

物が多かったが、今では10階建て以上のマンションやホテルが立ち並び、銀杏の高さも

変わって見えたのかもしれない。

小倉 和也

はちのへファミリークリニック院長



おぐら・かずなり
1972年生まれ。2010年に国内でも珍しい家庭医療の医院を八戸市で開業。国際基督教大、琉球大医学部卒。八戸市出身。

人と人との関係も同じようなもの。人は成長し、また老いていき、周囲の環境や関係性も日々変化していく。親に育てられた子がいつしか親を世話するようになり、いつの日か自分も老いていく。学校では後輩が先輩になり、職場での地位も変わっていくことで、既存の人間関係が変化すると同時に新しい人間関係も生まれる。

人それぞれが変化すること、物事の捉え方を変えること、すぐに何かが解決するわ

で関係が変化する面もあるだろう。一方で、関係が変化するために自分が変化することもある。さらに言えば、自分の在り方に影響を与えるその関係性そのものも、自分を形作る構成要素だという考え方もある。

医療や心理学の分野でも、このような考え方に立って、さまざま問題を解決しようという試みがある。人間がストレスを感じるのも、人間同士の関係によるものだとすれば、逆に自分もその問題を構成する要素であることにも気づく。一方的にストレスを与えられてるように見えたとしても、そこに受ける側の自分がいなければ、その問題自体が存在しないからだ。

在宅医療の現場でも、看取りなどに関わることは大きなストレスとなる。このようなストレスを、角度を変えて捉え直し、経験を共有しながら乗り越えていくための方法を、現在専門家の協力を得て開発している。基礎となっているのは関係性や言語によって、自分自身の在り方が作られているという考え方であり、医療そのものの根底にも影響を及ぼすものである。久しぶりに見た銀杏の木と私の関係を考えながら、そんなことに取り組んでいる。